

学校名	秋田市立旭北小学校
授業者	佐藤博美、原田歩夢

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

秋田の海たんけんたい2022

1-2. 学年

第4学年 他

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科、社会科、理科、図画工作科、総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

海はもちろん、山や川、田んぼなどが全くない秋田市の中心地で、官公庁や多くのビルに囲まれて生活している児童に、学習環境としての自然に触れる機会を多く設定したいと考え、今年度も計画を立案した。しかし、コロナ感染症の収束が見られず、公共交通機関を利用した校外学習を実施することはできなかった。

そこで代替として、「海の学びガイドブック」活動例に会ったカヌー体験を取り入れることにした。本校の大先輩にあたる方が秋田パドラーズ（カヌーの団体）にいらっしゃったこともあり、全面協力をいただいて、安全で有意義な活動をすることが可能になった。また、ビーチコーミングの機会も設けることができた。

これまでの活動の総まとめとして本を制作するほか、ビスクケットを活用して下学年が描いた海の生き物をプロジェクターで投影するなど他学年への展開も試みることにした。また、「全国海の学び交流会」に参加することにより、海洋教育パイオニアプログラム採択校との触れ合うことで、これまでの活動をふり返り、一層深めるきっかけとしたい。さらに、ウガンダの知り合いとのオンライン授業で、海外とのかかわりへと広げていきたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童は好奇心旺盛で、様々な事象に対して豊かに感受している。この単元を展開することは、4年生の児童が海に親しみ、海のすばらしさを感じ取り、大切にしようとする心を育てていくのに適している。この事業により、児童全員で実際に出掛けたり、疑似体験するなど、共通の体験をすることが可能になる。また、様々な方法で多くの人に伝えることもできる。さらに、東日本大震災等の災害の教訓として危険回避や復興、人と自然との共存などにつながる素地を養うことも可能であろう。

学年全体でダイナミックな学習を進めることができ、さらに1人1台端末（PC）の活用により、「資質・能力」の育成に大きな成果が期待できる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

より多くの共通体験を通して、海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」の海洋教育の4つのコンセプトのうち、「海に親しむ」ことを1番のねらいとして進めるが、（海を）「親しむ」ことができた児童は、「知る」「守る」「利用する」ことへの関心を一層強めていくことだろう。それにより、身近には感じられていなかった海への親しみが増し、海と共に生きていることを実感できると考える。

1-7. 単元の展開（全45時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
7	<p>深海魚の光の秘密って？</p> <p>○オンライン授業に参加</p> <p>○オンライン授業をきっかけとした図画工作科の学習</p> <p>自分が深海魚だったらどこを光らせるかを想像して、オリジナルの光る深海魚の絵を制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年作品を出品している「海とさかなコンクール」が開催した五十嵐美樹先生の講座（深海魚が光る秘密）に応募した。 ・専門家による実験やクイズは、児童の関心を高めるのに有効だった。 ・海とさかなコンクール主催 ・オンライン授業用の機器、画用紙・水彩絵の具等
16	<p>海につながる川のことを考えよう！</p> <p>○カヌー体験</p> <p>社会科での秋田県の地形や自然等についての学習から、秋田市を流れる雄物川に注目海につながる川を自分の目でじっくり観察周りの景色や川を泳ぐ魚など、普段とは違う視点で多くの発見</p> <p>○講師の先生&おうちの方のサポートへの感謝</p> <p>秋田パドラーズの方から、今と昔のゴミの量の違いや天候による川の変化、安全面について学習活動している様子を撮影してくれたおうちの方にも感謝</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習をきっかけとして、海につながる川への関心を高めた。教師自身がカヌー体験&ゴミ拾いに参加し、その意義を実感した。 ・全員にとって初めての体験で、授業の一環として実施できたことを、児童はもちろん保護者にとっても大変充実した活動となった。 ・秋田パドラーズ ・デジタルカメラ等の撮影機器等
10	<p>ビーチコーミングを楽しもう！</p> <p>○ジオパーク学習センターで</p> <p>安田海岸について、スライドで事前学習</p> <p>○安田（あんでん）海岸で</p> <p>ゆっくりじっくりビーチコーミング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの校外学習で訪れた男鹿の海を想起させて本活動につなげる。教師自身が何度も安田海岸やジオパーク学習センターに足を運んだ。 ・学校とジオパーク学習センターでの事前学習と、専門家が同行したことで、より深い学習ができた。 ・ジオパーク学習センター、黒潮実感センター長神田優さん ・デジタルカメラ等の撮影機器、1人1台端末等
12	<p>発信しよう！</p> <p>○全国海の学び発表交流会</p> <p>3年間の活動について発表</p> <p>交流会当日の参加の可否に関係なく、学年全員でこれまでの活動の振り返り&まとめ</p> <p>当日参加者は、発表はもちろん、質問に答えたり、質問をしたりして、積極的に交流</p> <p>○みんなで作る海の本</p> <p>みなとラボさんとのコラボで完成した「旭北ジャーナル」を参考にして、今年度の活動を各自がまとめた1冊の本が完成</p> <p>活動のたびにまとめた新聞やスライド等をプリントアウトして貼ったり、新たに書いたり描いたりして、自分だけの「海の本」が完成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとにまとめや振り返りを大事にし、積み重ねてきた。その集大成となるように、児童の意欲を喚起しながら進めた。 ・1年間（発表交流会は3年）という長期間の活動のまとめではあったが、1人1台端末を活用することにより、発表用のスライドや発表原稿等を児童が作成し、内容の濃いものとなった。 ・海洋教育パイオニアスクールプログラム、みなとラボ ・1人1台端末、プリンター、旭北ジャーナル、ビスケツト等

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

みんなで一緒に、雄物川へこぎ出そう。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 秋田パドラーズのみなさんとの再会 ・いよいよカヌー体験だ。 ・雄物川、広いなあ。 ・ちょっと不安になってきた。	・本時の学習への意欲を高められるように、講師の先生方との出会いを大事にする。
2 学校での安全講習を思い出しながら、改めてカヌーイングについて確認 ・パドルの動かし方は…。 ・カヌーの上では…。 ・バディと力を合わせて進もう。 ・速く出発したいなあ	バーチャル背景の送付 作品作りの場の設定 オンライン授業用機器の設定 ・本時の授業に特別感を抱くことができるように、普段とは違う用具を準備したり、画材との出会いを演出したりする。
3 周りの景色や川の様子を見ながらカヌーイング ・あ、魚がいた。 ・ゴミはほとんどないね。 ・おかあさんたちが写真を撮ってくれているよ。 ・おやつ島で一休み。楽しいね。	段ボール、アミ、歯ブラシ、梱包材 など あらかじめ切り分けた用紙 ・各自、各般の活動の様子を講師の先生に伝え、子どもたちへの声掛けをしていただく。
4 ゴールの船着場に到着 ・自分たちの力でここまで来れたね ・秋田パドラーズのみなさんのおかげだね。 ・写真、楽しみだね。	・テーマに沿って仕上げた作品について、イメージしたことを伝え合う時間を設定する。 自分で グループ内で

	ほかのグループと 講師の先生と
--	--------------------

3. 今回の活動の自己評価

様々な活動を通して生き生きと活動する児童の姿から、(海を)「知る」「守る」「利用する」資質や能力、態度を育むことができたと感じている。

今年度も、当初の計画のように進まないことが多かったが、各教科の学習との関連を図りながら充実した内容にすることができた。オンラインで講師の先生の指導を受けたり、GIGA 端末を活用できたことが、今年度の大きな収穫であった。

活動についてまとめたものは、校内(市場のポスターは校外にも)に掲示したり、紹介したりするなど、他学年への展開を試みた。3年生の活動を機に、海への関心やGIGA 端末を活用した発信について、関心をもった他学年児童(と教員)が多かった。校内に海洋教育を広げる発信源となることができた。

4. 今後の課題

初年度から計画しつつもコロナ禍により実現できていない、海でたっぷり過ごす時間を設定し、みんなで共通の自然体験をしたい。その一方で、今年度ご縁が繋がった3710ラボさんとのコラボや、海の砂についての分析やしょつつるやさんとの交流など、今年度の活動をさらに広げたい。来年度は、本校が採択校となる3年目なので、集大成として、よりダイナミックな内容にチャレンジしたいと考えている。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

(特になし)